

令和元年度 第3回下野市学校適正配置推進協議会議事録

日 時 令和元年11月13日(水) 午前10時～午前11時30分
場 所 下野市役所 304会議室

出席委員 会 長 小野瀬 善行 副会長 大塩 宗里
委 員 蓬田 みどり 委 員 須藤 克己
委 員 宮川 長一 委 員 坂口 修
委 員 大栗 俊克 委 員 川中子 俊光
委 員 石田 陽一 委 員 小谷野 晴夫
委 員 飯島 珠美 委 員 上野 保久
委 員 坪山 仁
欠席委員 委 員 小林 亜友子 委 員 稲葉 啓介
委 員 高山 忠則

議事録(概要)作成年月日 令和2年1月17日

議 事

- (1) 今後の方向性についての協議
- (2) その他

【議事等】

(事務局)

はじめに、前回の会議で質問があった学童保育について、今回の会議において回答することになっておりましたので、説明させていただきます。

まず学童保育の設置要件についてですが、こども福祉課に確認したところ、明確な規定はありませんでしたが、基本的には児童数10～40名で運営を行っているとのことでした。

現在、石橋小学校の学童保育に通っている細谷小学校の児童は8名で、その内訳は、細谷地区の児童が4名、小規模特認校制度を利用している児童が4名となっています。学童保育には学童保育支援員が配置されますが、常時2名の支援員が必要で、シフトについて考慮するとさらに1～2名が必要となります。

細谷小学校の学童保育は、平成22年度まで保護者会で運営を行っていましたが、平成23年度から市に移管されるのと同時に石橋小学校の学童保育と統合しています。

(委員 A)

学童保育を利用したいという児童が10名以上になった場合には、細谷小学校に学童保育を復活させることは可能ですか。

(事務局)

先ほど説明したように、平成23年度に石橋小学校の学童保育と統合しているので、復活させることは難しいと考えられます。

(委員 A)

他の学校で馴染めないという理由で小規模特認校制度を利用して、細谷小学校に通っている児童が多いにも関わらず、大人数の学童保育で馴染むことは難しいと思います。

(事務局)

今後については、こども福祉課と相談させていただきます。

それでは、前回議事録の確認について事務局よりご説明いたします。事前に送付できなかったため、後ほどご確認いただき、修正等がある場合には11月22日までにご連絡ください。

(会長)

議事に入ります。

(1)「今後の方向性についての協議」ですが、はじめに委員 B より学校適正配置推進協議会地域説明会のアンケート結果について説明を求めます。

(委員 B)

資料に基づき説明を行う。

(会長)

只今、委員 B より説明がありましたが、委員の皆さまからご質問やご意見がありましたらお願いします。

(委員 C)

市全体のことを考えたときに、小規模特認校を残しておかないと選択肢がなくなってしまうことになるので、残す方向で話を進めていただきたいと思います。

(会長)

広報活動として、幼稚園で小規模特認校の説明会を行っているとのことですが、保護者の方の反応はいかがでしたか。

(委員 B)

石橋地区の幼稚園で説明した際には、小規模特認校制度をご存知の方も多くいたため、うなずきながら納得して聞いていただいていた様子でしたが、南河内地区や国分寺地区の幼稚園で説明をした際には、細谷小学校の小規模特認校制度を知って、驚いている方が多くいらっしゃいました。説明終了後、何名かの方に、詳しく聞きたいと声をかけていただきました。通学距離の遠

さを懸念されている方もいらっしゃいましたが、興味深く聞いていただくことができ、反応は良かったと感じています。

(委員 D) 保護者の方からのアンケート結果を拝見しましたが、細谷小学校に子どもを通わせている保護者にとっては、学校がなくなってしまうのは困るという思いが一番強いのではないのでしょうか。何かあった時に受け入れることのできる学校があることで、教育や福祉の充実を市民の方にアピールすることができるので、市内に1校は小規模特認校を残すべきだと思います。

(委員 E) 子どもたちの未来を担っている学校なので、存続するという方向で前向きに検討を進めていくことで、保護者の方や地域の方が、安心して子どもを通わせることができるのではないのでしょうか。

(副会長) アンケート結果を拝見しましたが、保護者の方には「学校適正配置推進協議会がある＝細谷小学校が廃校になってしまう」と捉えられていることがわかります。「下野市学校適正配置基本計画」において、適正とされる学級数等の基準も定められておりますが、何名かの委員の意見にもあるように、小規模特認校制度は、市の教育の特色の一つと捉えることができると思います。

(会長) アンケートの結果も踏まえ、今後の方向性について協議していきたいと思っています。

平成29年に、「下野市における小規模特認校の取組に対する検証結果について」という提言書を学校適正配置推進協議会としてまとめました。その際、国分寺西小学校については、急速な少子化傾向のため、国分寺小学校と再編という結論を出ささせていただきました。他方で、細谷小学校については、小規模特認校制度により児童数の増加が見られるため、3年間引き続き様子を見ながら、複式学級解消を目指していくべきであるとししました。平成29年度の提言書において「平成31年に同様の検証を実施し、更なる方向性について検討する」と示されているため、今年度も学校適正配置推進協議会が開かれています。3年前から児童数等に大きな変化はない状況なので、3年前に出された結論から大きく変えることはできないという考え方ができる一方で、「下野市学校適正配置基本計画」において、複式学級があることは望ましくないとされているため、細谷小学校をこのまま存続させて良いのか検討すべきであるという考え方もあります。

また、3年間では大きな変動がなかったことを踏まえると、3年ごとの検証が適正なのかという点も考える必要があります。

どれくらいの期間で検証を行っていくのか、どのような状況になった場合に再編・統合という方向性を考えるのか、という論点についてご意見をいただき、具体的に示した提言書をまとめていきたいと思っています。

(委員 F) 3年前と状況があまり変わっていないというご説明がありましたが、第1回の資料 No. 4 を見ると、児童数について平成28年度41名、平成29年度43名、平成30年度46名、平成31年度53名と増加していることがわかります。「下野市学校適正配置基本計画」の中にある表で、令和2年度から児童数が減少しているのは、小規模特認校制度を利用して入学してくる児童が計算に入っていないからであり、今後も細谷小学校の児童数は、増加もしくは横ばいになると考えられます。

- (会長) 事務局から資料の補足等がありますか。
- (事務局) 「下野市学校適正配置基本計画」にある児童数の推移の表は、小規模特認校制度の利用者数が未定の部分は空欄になっているため、令和2年度以降の児童数が減少しています。
- (委員 G) 委員 F がおっしゃるように児童数は増加しているが、まだ複式学級の解消には至っていないので、小規模特認校制度の周知も十分に行いながら、期間を定めて検証を続けていくことが望ましいと思います。
- (委員 C) 複式学級解消の方針は、国の制度で示されています。しかし、何が何でも複式学級をなくさなければいけないとするのではなく、教育には選択肢があったほうが良いのではないのでしょうか。下野市で小規模特認校が残っているという例ができれば、他市町村にも例ができると思います。国を動かすくらいの気持ちで、教育に取り組んでほしいです。
- (委員 F) 小規模特認校制度を下野市の特色ある教育施策の一つとして打出すことは、細谷小学校に通う子どもたちが救われることはもちろん、地域活性化にも繋がります。ただし、児童数を増加させて複式学級を解消するために、学校および市のバックアップのもと、みんなで努力していく必要があります。
- (委員 G) 少人数でしかできない授業もあれば、大人数でしかできない授業もあります。今後さらに広報活動を行い、児童数の変化を検証していく必要があると思います。
- (会長) どのような期間で、どのような検証を行っていくべきか、これから議論を進めていかなければなりません。
- (委員 H) 私は、平成25年度の学校適正配置推進協議会に委員として出席していました。そこで、広報活動を積極的に行い、知ってもらおう努力をした結果を見ることにしたら良いのではないかと、という意見を言ったことがあります。現在の児童数の推移を見ると努力の結果が出ていると思います。しかし、小規模特認校制度の利用者には困り感を持った子どもが多く、半分以上が小規模特認校制度利用者になった場合に上手くいくのかという懸念もあるので、その点も留意しながら検証を進めていかなければなりません。様々な子どもと上手く関わることは大切です。上手くいっているときのことだけではなく、そうではないときのことでも考えていかなければならないと思います。
- (委員 A) 細谷地区に家が建てられないということも問題の一つなのではないでしょうか。
- (委員 C) 調整区域の関係で家を建てられないという声を聞きますが、建てようと思えば建てることは可能です。市全体で取組んでいくという思いを皆様を持っていただきたいと思います。
- (副会長) 児童数の推移の表を見ると、これからも複式学級が継続するとされていますが、複式学級の運営がいかに大変かということは、十分に承知しています。発達状況に合わせてすべき学習をまとめて行うということは、無謀なことであるとも言えるので、複式学級を解消していくことは、学校側としての切実な願いだと思います。細谷小学校をいかにいい学校にしていくかということ考えたときに、3年という期間で再度検証を行っていく必要があると思います。
- (会長) 事務局には、本日出された意見に基づいて、検証結果案を検討していただ

きたいと思います。

続いて(2)「その他」について、事務局より説明を求めます。

(事務局) 協議の中で、3年間で再度検証を行うという方向性が出てきましたが、このことについて、改めて地域保護者説明会を開催する必要があるかどうかをご協議いただきたいと思います。

(委員 E) 具体的な結論が出ていない状態で説明会を開催しても、負担に思われてしまうと思うので、開催しなくても良いのではないのでしょうか。回覧等でも良いと思います。

(委員 B) 回覧によって今後の方向性を知ることで、安心される方もいると思いますが、回覧が上手くいかない場合もあります。きちんとした行政からの説明を受けることで、さらに安心感も深まるのではないのでしょうか。

(委員 D) 心配している方が多くいるので、どのような協議をしているのかという報告をすることは、行政の責任だと思います。

(会長) 協議会としては、説明会を開催する方向で意見をまとめたいと思います。

(事務局) 説明会を開催する予定で準備を進めていきたいと思います。当初は、12月に開催予定でしたが、時期については再度検討させていただきたいと思います。

本日の議事日程は全て終了した旨を告げ、午前11時30分閉会。